学年を越えた強い絆 いいね!

互いをよく知り認め合う家族のようなつながりは培われてきた素晴らしい校風

小中一貫教育を行う学園では、6歳から15歳の児童生徒が同じ学び舎で過ごしています。長い期間を共に過ごす子どもたちのつながりには、家族のような温かさがあります。校内の清掃や異学年交流イベントなど、学年を越えた活動が当たり前となり、代々続く上学年の面倒見のよさ、先輩後輩の仲のよさが、校風としてしっかり定着しています。隣接するこども園とも交流しています。

小さい時に年長者から受けた優しさを、大きくなったら次の代へ。経験から学び自然に身に付く振る舞いが、随所に現れます。

村民との交流が活発に いいね!

田んぼで畑でキッチンで体験を通して大先輩から村のよさを学んでいます

前期課程3・4年生は、学校の畑で凍み餅の材料となるごんぼっぱ栽培に挑戦しました。達人に一から学ぶことで、子どもたちもごんぼっぱの達人に育っています。

新しく作られた畑でのごんぼっぱやえごま、大豆などの栽培活動、二枚橋地区での田植え・稲刈り体験、凍み餅などの伝統食づくりなどでは、多くの村民講師や村民ボランティアの皆さんに、協力をいただいています。

「農業の達人」から学ぶ栽培活動では、達人が何度も足を運んでノウハウを伝授。おかげで無事に収穫までこぎつけることができたそうです。今年度からスタートした『しみじみマスタープロジェクト』（凍み餅づくりを通して村の食文化を学ぶ）については、凍み餅が完成する頃、改めてお伝えします。

豊かな教育環境と少人数教育のよさを生かし可能性を最大限に引き出す

いいたて希望の里学園
校長　山田 徹 先生

義務教育学校として3年目、（コロナ禍の影響はありますが）ようやく通常の教育活動を実施できるようになりました。村から整備していただいた素晴らしい教育環境や多く配置されている教職員などの人的環境をフルに生かし、タブレットや大型電子黒板を活用した最新の教育活動も実践できるようになりました。また、「いいたて学」を通して多くの村民の方々にご協力いただき、大きな成果を上げています。

子どもたちは、一人1台のタブレットを日常的に活用しながら、友だちと協力して課題を解決したり、自分の考えを生き生きと表現したりしながら、飯舘村に誇りをもって学校生活を過ごしています。

本校の使命は、原発事故に伴う避難を経験した飯舘村のただ1つの学校として、地域が期待し、地域の希望となる人材の育成です。これからも原点を忘れることなく、本校の特色ある教育活動を推進してまいります。